

1 久野城址保存会創立40周年記念事業 会員の募集を呼掛け

久野城址保存会が昭和52年に発足して40年の節目の年にあたることから、記念事業が計画されています。記念事業では、記念誌の発行、講演会などを計画しており、これを機会に会員の募集を行っています。

久野城は戦国時代、久野氏・松下氏・北条氏の居城となり、今川一武田一徳川と続く戦国の荒波をかいくぐり、江戸初期に廃城になるまで東海地方に君臨してきました。保存会では、この久野城の魅力を伝えるため、会報の発行や久野城教室などの活動を続けています。



▲恒例の久野城址ウォーキング・お花見が満開の桜の中、今年も開催されました。(2018.3.31)

▲久野城址の袋井桜
4年前に久野城址に植えられた袋井桜が美しい花を咲かせるようになりました。(2018.3.15)

2 浅羽佐喜太郎公碑建立100周年記念事業 9月22日(土)に記念式典を計画

浅羽の常林寺にある浅羽佐喜太郎公記念碑が建立されてから100年になることを記念し、式典が開催されます。この記念碑は、ベトナム独立運動の先駆者ファンボイチャウが恩義を受けた浅羽佐喜太郎医師を偲んで建てたものです。今では歴代3人のベトナム大使が訪問するなど、日越友好の象徴にもなっています。

昨年3月の天皇皇后両陛下のベトナム訪問の際には、フェ市のファンボイチャウ記念館にも立ち寄られ、その歴史について触れられています。

また昨年12月には、生誕地ベトナム・ゲアン省で開催されたファンボイチャウ生誕150周年の式典では浅羽佐喜太郎が紹介され、日本からも袋井商工会議所のメンバーはじめ関係者が駆けつけました。

記念式典は、碑のある常林寺、またメロープラザで開催され、静岡県知事なども出席の予定です。ベトナムからもベトナム大使ほかファン家の子孫、生誕地ゲアン省からも要人の参加が予定されています。

▲ベトナム・ゲアン省で開催されたファンボイチャウと浅羽佐喜太郎の国際シンポジウム。(2017.12.15)



▲ベトナム・ゲアン省のファンボイチャウ記念館に設置された浅羽佐喜太郎公記念碑の立体像。
▶ベトナム大使館ソソク大使をお迎えし、市総合庁舎で開催された実行委員会のキックオフ大会。(2017.8.19)

3 松下コレクションを活かす会 今年度から毎週土日に展示室を開放

世界の茶文化資料を紹介する「松下コレクション」の展示が、今年度から毎週土・日曜日に開催されることになりました。場所は、浅羽庁舎3階(旧浅羽町議場)。展示場には、元愛知大学教授の松下智先生が中国、ベトナムなどアジア各地を長年にわたって訪問して蒐集した茶道具、茶見本など、貴重な逸品が並べられています。また茶に関する膨大な蔵書も見られるようになっています。会場では講演会も開催される予定で、茶の歴史から文化、また栽培から生産まで、様々な茶談義が交わされる場にすることも検討されています。



▲松下コレクションの特徴は、今では貴重となった中国奥地の少数民族が実際に使っている日常的な茶道具などが集められていることです。蒐集の範囲は、中国、モンゴル、ベトナムなど世界各地に広がっています。

4 正岡子規句碑建立60周年 講演会・表彰式が開催される

正岡子規が生誕して150年、また袋井駅前に句碑が建立されて60年になるのを記念し、12月10日俳句大会講演会・表彰式が駅前、及び月見の里学遊館で開催されました。

「冬枯れの中に家居や村一つ」で有名な歌は、子規が明治22年松山に帰省する途中、車窓から見た景色を詠んだもので、当時の袋井の様子が偲べれます。記念碑は昭和32年地元の短歌俳句クラブ「八雲会」によって建立され、題字は書家の川村驥山、レリーフは人間国宝の香取正彦が手掛けました。

式典には、香取正彦氏のご子息香取孝彦夫妻、孫の香取午朗氏もお見えになりました。



▲月見の里学遊館で開催された表彰式・講演会。(2017.12.10)

▲袋井駅前の句碑。

まもる通信

vol.20
2018年5月

ともに創ろう 明日の袋井 地域の未来

いいます
提案

やります
実行

みせます
実績

発行/ 袋井市議会議員 寺田 守

袋井市久能1810-11 TEL&FAX:0538(44)1351

✉ mamorut@yr.tnc.nc.jp http://www.mamoru-t.net



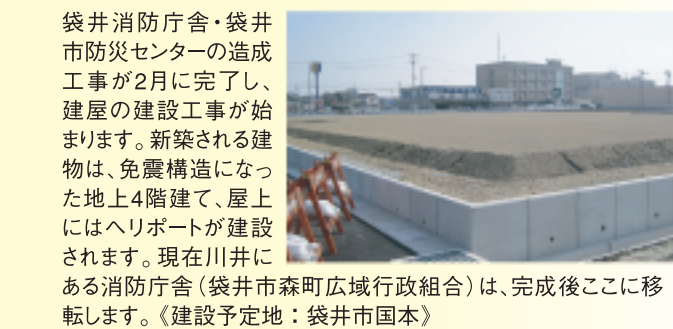
エコパスタジアムで行われた世界ラグビー交流月間での日本vs.アイルランド戦(2017.6.17)



袋井市総合体育館は、設計・建設・運営・維持管理まで袋井アリーナPFI(株)に委託する方法を採用しています。主な施設としてはメインアリーナ、サブアリーナ、武道場兼多目的フロア、トレーニング室、キッズルームなどが建設されます。民間提案でカフェ(スターバックス)が出展予定です。



造成工事が始まった総合体育館建設予定地。 袋井総合体育館の起工式が建設予定地で行われました。(2018.3.26)



袋井消防庁舎・袋井市防災センターの完成時の予想図

人口減少社会に備えて始動

■今年度の予算

平成30年度の市政が動き出しました。今年度の市の予算は、一般会計323億5千万円、特別会計166億8千万円、企業会計45億6千万円、合計535億9千万円となっています。年度初めの予算ですが、昨年度と比較すると16億7千万円の減、▲3.0%の予算となっています。

一般会計全般の収入の特徴では、法人市民税が増加しているものの、国県支出金が減少して前年比11億円6千万円の減少。一般会計全般の支出では、医療費など扶助費が増加し、反対に建物、道路建設など投資的経費が圧迫される状態が続いています。扶助費の増加傾向は、今後も続いていくものと推測されます。

■大型事業の着工

こうした中、今年度から新総合体育館、袋井消防庁舎・袋井市防災センターの建設が本格化します。総合体育館の整備費用は、周辺整備や15年の運営維持管理費などを合わせて約61億4千万円。また消防署・防災センターの整備費用は、約39億円となっています。いずれも市の財政規模からいっても大型事業です。

二つの事業の完成時期は、平成32年4月となっています。この事業が将来にわたって市民の安全安心、健康文化都市の実現に繋がるものでなくてはなりません。

■公民館のコミュニティセンター化

施設の再整備と共に課題になっていることに、少子・高齢化を迎えた市民生活の仕組み作りがあります。袋井市は人口が僅かですが増加している数少ないまちですが、人口減少の影響は様々な場面で困難に直面するようになっていきます。防災、介護、子育て、健康づくり、自治会運営等、抱えている問題も無関係とは言えません。

公民館のコミュニティセンター化とは公民館を一つの単位とし、これからの少子・高齢化時代を生き抜くため、とも考えられます。今年度はその第一歩、まだまだ手探りの状態が続くと思われませんが、それぞれの地域で、それぞれの特徴を活かした地域おこし・地域づくりが求められます。

■スポーツドリームの年

今年度は、スポーツのビックイベントが始まる「スポーツドリームの年」と言われています。ピョンチャンオリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍は記憶に新しいところですが、8月には2日(木)~5日(日)全国高校総合体育大会(インターハイ)弓道大会がエコパアリーナで開催されます。そして来年はいよいよ2019ラグビーワールドカップの開催年でもあります。

既に対戦試合も決定し、平成31年9月28日(土)エコパでの日本vsアイルランド戦を皮切りに4つのカードも発表されました。スポーツは人を元気にする、と言われています。今年度が、新しいまちづくりの始まりの年であったと記録される年にしたいものです。